

軍の士氣益々振ひ日本軍の機銃、大砲、戦の猛攻の中に躍り込み多数を殺した、日本軍は城内に敗走した。七日朝更に城内に突入猛烈な市街戦を演じ双方死傷甚大である、激戦は同日夜途續いた。

(3) 廣東省の南部廣東東の……を中國軍は二十五、六日以来猛攻撃し多数の日本兵を殺し、鹵獲品多量を得た、現在中國軍は追撃し同地を包圍攻撃中である。

(4) 江西省北部に於ては中國軍は南昌を包圍目撃しい活動を續けて居る遊撃軍も進撃し日本軍は非常に恐慌を來して居る、湖北省では朝陽……公路の……を日本軍は連日攻撃したが中國軍の猛烈なる反抗に逢ひ三千以上の死者を出し今尙激戦中である。  
山東省北部の中國軍は二十七日……の日本軍警戒線を突破し城内に突入日本軍多数を殲した。

## 秘報

内閣情報部五・一一 情報第三號

— 成都支那中央通信社報（六日） — （朝鮮總督府通信局總取）  
重慶報

五月四日の爆撃に因る重慶被災者の窮境を深く憂慮した蔣介石は孔祥熙に對し緊急救済に百萬元を計上することを要求すると共に、重慶の黨、軍、政中樞部及國民黨青年團に救済工作を指令した。總統は昨夜緊急救済に五十萬元を充てることを發表すると共に公私を問はず重慶の自動車、船舶をして昨日と今日罹災民を無料輸送せしめる様にとの命令を發した、又重慶衛戍司令部、政治部、重慶市政府、空襲緊急救済局に對し「避難區域」の支度を指令し、全國救済委員會に對しては罹災民に對する避難所及び食糧の手配を指令した。一方支那政府は防火道路の完成促進と政府及び軍の高官が少くとも一箇月分の俸給を義捐金に寄附することを決定した。昨五日の午前十時より、重慶の乗物は國府主席林森、蔣介石の乗用車より公私の自動車、トラックに至る迄全く全部が郊外へ難民の輸送を開始した。公路に沿つては難民に水や休息や乗物の世話をする休息所が開設された。救済當局は各爆撃犠牲者の遺族にして無一文の者には三十元、又自分で醫療方法を求めんとする負傷者に對しては各五元の扶助料を與へてゐる。尚フランス修道院が營んでゐた難民キャンプの收容者百名餘が、修道院の一

部を破壊した焼夷弾によつて生じた火災により焼死したことが判明した。本日の重慶は凄じ  
い混乱より立直らんとしてゐる、市街は崩壊物を取片付けられ、市の水道も復舊した、手足  
を失へる屍體も片付けられた、たゞ消すことの出来ないのは半ば廢墟に掩はれた市街で猛烈  
な爆撃の思ひ出を新にしてゐる。爆撃直後日本、朝鮮、臺灣反ファシスト聯盟は「日本の爆  
撃に對する支那の抗議に同情を披瀝するものとして」救援に三百元を寄附した、  
寄附者の内には女子三名を含む日本人五名、朝鮮人一名、臺灣人一名と朝鮮義勇團員及臺灣  
革命黨員が含まれてゐた。

## 極秘

内閣情報部五・一一 情報第四號

一 獨逸トランス・オーシエン新聞電報放送 (六日) (朝鮮總督府通信局錄取)  
重慶報

四日夕刻午後六時重慶上空に現はれた日本爆撃機群は編隊で飛行し、少くとも市の三分の一が  
焼夷弾によつて炎上する程の正確さを以て投擲した。獨英佛の領事館は襲撃の道筋にあつて、  
ドイツ領事館は附近に落ちた爆弾の反動で一寸さした損害を蒙つただけだったが、英佛兩領事  
館は爆弾に打たれて其の中に避難してゐた者に死傷者を出した。中央通信社の建物も間近に落  
ちた爆弾によつて損壞し、社員數名が負傷した。爆撃の五分後重慶市は炎上し、市民は恐怖に  
襲はれ火焰より逃げのびんとしてゐた。市の下町から、破壊を免れた山手方面に通ずる街路が  
極めて少い事實によつて、忽ち混乱は通行を不可能ならしめ、狂氣の如く市民は壊滅の市より  
脱出せんとしたので戦慄すべき光景を呈した。ドイツ領事館の三方面は猛火に襲はれたが、建  
物には延焼しなかつた。市中央部の電燈、電話線は絶たれて、完全なる孤立に陥つた。目貫の  
ビジネス街は六日に至るも各所尙燃え續けてゐた。空襲以來行方不明となつた外人の中に市の  
中心に職場を持つてゐた二人のドイツ人がある。重慶との通信連絡一切が絶たれたのでトラン  
ス・オーシエン通信員は前記の通信を打電するため香港迄飛ばねばならなかつた。